



日本社会に根差したウェルビーイングの向上 ③

⑤ ウェルビーイングの二つの要素

◆ 獲得的要素

個人が獲得・達成する能力や状態に基づくウェルビーイング

➢ 自尊感情 ➢ 自己肯定感 など

◆ 協調的要素

人とのつながり・関係性に基づくウェルビーイング

➢ ・利他性 ➢ 協調性 ➢ 社会貢献意識 など



⑥ 日本社会に根差したウェルビーイング

- 獲得的要素と協調的要素を調和的・一体的に育む。

「調和と協調」に基づくウェルビーイング

- 我が国の特徴や良さを生かすものとして国際的に発信していく。

<教育を通じて向上させる要素>

- 幸福感（現在と将来、自分と周りの他者）
- 学校や地域でのつながり ➢ 協働性 ➢ 利他性
- 多様性への理解 ➢ サポートを受けられる環境 ➢ 社会貢献意識 ➢ 自己肯定感
- 自己実現（達成感、キャリア意識など） ➢ 心身の健康 ➢ 安全・安心な環境 など

※ 教育活動全体を通じて向上させ、子供たちの主観的な認識の変化についてエビデンスを収集

<関連する主観的指標>

- 自分にはよいところがあると思う ➢ 自分の幸福感 ➢ 将来の夢や目標をもっている
- 学級をよくするために互いの意見の良さを生かして解決方法を決める ➢ 友人関係の満足度
- 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う ➢ 授業の内容がよく分かる
- 自分と違う意見について考えるのは楽しい ➢ 先生は自分のいいところを認めてくれる
- 勉強は好きと思う ➢ 人が困っているときは進んで助けている
- 困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる

人間の器

思想家・哲学者・作家／ラルフ・ワルド・エマソン

人間の器は、その人が進んで受ける責任の重さによって測ることができる。

出典：「賢人たちに学ぶ 道をひらく言葉」 本田季伸著（かんき出版）

※ 責任を果たす過程で、更に器は大きくなっていきます。